



周回路で聞こえる蟬はツクツクボウシやニイニイゼミに代わっています。草むらにいたキリギリスは聞こえてきませんでした。体温超えの気温を記録した日でしたが、時折吹き抜ける風からは涼しさを感じました。水を満々とたたえた愛知池の水のおかげです。



クサギ

葉に独特のにおいがあり、甘い香りのする白い花を付けます。時折クロアゲハなどが吸蜜に訪れています。



ツチイナゴ幼虫

ショウリョウバッタやマダラバッタが草原を飛び回っています。この冬を越すツチイナゴは、成長が遅めです。



左:ホシミスジ、右:コミスジ  
体に対し垂直方向に3本の白い筋が見えます。ホシミスジはその行き着く先に四角斑がいくつも現れます。両方とも少し羽ばたいては滑空します



クロアナバチ

体長30ミリで光沢のある黒い蜂で、キリギリスの仲間を麻酔して捕獲し、あらかじめ掘ってある巣に運んで、産卵します。穴は3本掘り、中央の穴のみを使う習性があります。矢印の先にツユムシがいます



ハイイロチョッキリの落とした小枝

体長10ミリほどのゾウムシの一種の仕業です。コナラのドングリが大きくなった頃、長いくちばしの先で殻に穴を開けて卵を産むと葉を枝ごと落とすのです。右は殻の下に産み付けられた卵です。このようなドングリが道に落ちていたら、脇に寄せて歩くようにしています。



↑卵



**ショウリョウバッタモドキ**

ショウリョウバッタに似ていますが後脚が短く少し小ぶりのバッタで、複眼の辺りに赤い筋があります。おしりを振って殻を落とすと180度向きを変えました。



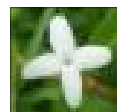
**ミスジミバエ**

体長10ミリ。まず気付いたのは緑色の複眼です。黒い背中に黄色い3本の筋があるのが名前の由来。幼虫カラスウリなどの雄花や実を食べます。



**オオフタバムグラ**

北米原産でピンク色の花卉がかわいらしいですが要注意外来生物に指定。白いメリケンムグラほどは広がっていません。



**マユタテアカネの雄**

6月末頃から姿を見えています。ようやく成熟の時期を迎え、雄の腹部が赤く染まってきました。もっと赤くなって、翅にある縁紋まで赤くなります。



**クロウリハムシ食痕**

カラスウリの花は終わりに近づいていますが、葉を見ると上のような丸い食い跡が見られます。これはハムシが食べる前に円く傷を付けて葉の分泌する成分を排出してから食べた痕です。



**マダラバッタ**

草むらのあちこちから飛び交うバッタの多くがマダラバッタでした。後脚を見ると上の写真のように三色になっているのでこの名前になったそうです。左のような幼虫もいました。



**セグロイナゴ**

体長30ミリ、左のような胸の背面が濃い色に染まったバッタがいます。複眼には縦縞が見えます。自然度が高く低めのイネ科が多い草原に生息するバッタです。しかし近年このバッタが生息する草原は減っています。愛知池でも限られた場所でのみ見られます。

